

2017年度 教育実践研究論文 各賞決定!!



二次審査の様子

受賞者の皆様、誠におめでとうございます

1月26日(金)千葉県教育会館において、教育実践研究論文審査委員会(二次審査)を開催いたしました。本年度は、「学校部門」、「個人・グループ部門」合わせて40点の応募をいただき、千葉県総合教育センター所長安藤久彦審査委員長他15名の委員による厳正なる審査を経て、各賞が決定いたしました。なお、受賞者の皆様の一覧を裏面に記載いたしましたのでご覧ください。

また、研究と実践の成果を『教育実践研究論文集』として、毎年発刊しています。3月末に、各学校に1部ずつお届けいたしますのでご利用ください。

- 安藤審査委員長のコメント -

今年の論文は、学校・個人部門ともに現代的な課題に即したテーマが多くみられ、どれも甲乙つけ難い優れた内容でした。



学校部門 最優秀賞

テーマ

小中一貫教育を目指す小中兼務教員(中学校教員)による小学生への指導 松戸市独自教科「言語活用科」言語活用科日本語分野」を切り口として



松戸市立第五中学校
高橋 政弘 校長



この度の受賞に際し、公益財団法人日本教育公務員弘済会千葉支部とご審査いただきました関係の皆様には感謝申し上げます。また、平成21年度から進めて参りました学区小学校との連携、そして小中一貫教育にご理解をいただき、小中兼務教員を配置していただいた千葉県教育委員会と松戸市教育委員会に心から御礼申し上げます。

今後も、松戸市独自教科「言語活用科」の効果を毎年検証し、児童生徒の学力向上に邁進して参ります。ありがとうございました。

KYOUIKU JISSEN KENKYU RONBUN 2017



個人・グループ部門 最優秀賞

テーマ

考え、議論する道徳授業の在り方

自分らしさを発揮し合う、対話・話し合い活動を通して



木更津市立波岡小学校
古館 良純 教諭

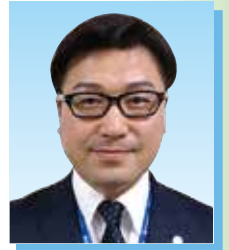
最優秀賞への選出、本当に嬉しく思っています。教科化される道徳。「どのくらいの方が本気で考えているのか。不安に感じているのか」「自分自身は4月から道徳と向き合う準備ができているのか」ということからのスタートでした。

私の周りでは、教科化に対してマイナスな言葉が多く聞こえていました。「教科書はどうするのか」「そもそも評価してもいいのか」というようなものです。

でも、文科省のページを読んでみると、子どもたちの心をどんどん豊かにしていこうというメッセージに受け取ることができました。私は、「せっかく教科化されるのだから、プラスの面に目を向けて取り組みたい」と強く思ったのです。

受賞してからがスタートです。ここから、よりよい道徳の実践のために「考え、議論」し続けていきたいです。本当にありがとうございました。

KYOUIKU JISSEN KENKYU RONBUN 2017



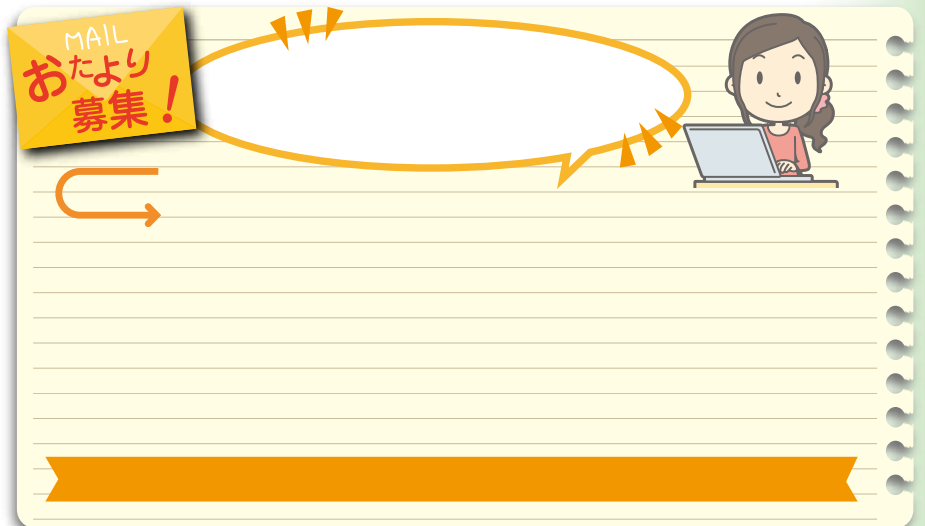
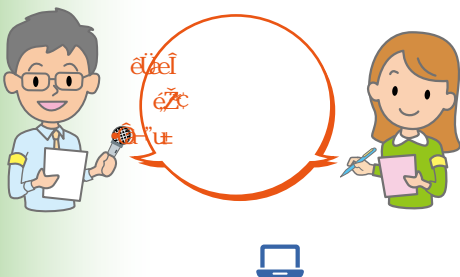
章



広報誌「きょうこう千葉」が
できるまで



コース



広報誌
募集

